

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 商学部 |
| 大項目 | 0 理念・目的 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 |
| 要素 | 理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応 |
| 小項目 | 0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。 |
| 要素 | 構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法 |
| 小項目 | 0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 |
| 要素 | |

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|--|---|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 大項目1～13に関して設定した諸目標を達成することによって、本学部の使命・目的を実現する。 | →大項目1～13において掲げられた諸目標に関して、それらの達成度の維持・向上。 | B | C | B | | |
| 2. カリキュラムや教員組織等が商学部の使命・目的に照らして妥当か否かに関して、常時継続的な検証努力を行う。 | →妥当性の常時継続的検証のための会合開催回数。 | B | C | B | | |
| | | ☆ | | | | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

| | |
|-------|---|
| 目標1 | カリキュラムの改正が行われ、それについてはカリキュラムガイドが作成され、学生への周知がはかられた。ガイドには新カリキュラムの特色、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、カリキュラム・マップが記載されており、一定の目標達成にはなったが、浸透をはかるための機会を継続的に設けることが必要である。 |
| ☆ 目標2 | 昨年中にカリキュラムの改正を終え、本年4月から新カリキュラムの運用が始まった。新カリキュラムは専門科目の2単位化、言語科目の Semester 開講、専門基礎科目の強化をはかった。一方、演習科目の再構築や進級条件の設定等が実現されず、引き続き検討を要する。なお、新カリキュラムの妥当性や効果についても継続的な検討が必要である。 |
| 備考 | |